



盛岡高等農林学校

関豊太郎教授記念シンポジウム

地球温暖化は

「サムサノナツ」をなくすのか？



【日時】 2007年9月19日(水)
10時～17時20分

【場所】 岩手大学 農業教育資料館
(岩手県盛岡市上田3丁目18-8)

岩手大学の前身である盛岡高等農林学校で教鞭をとり、宮沢賢治の指導教官でもある関豊太郎教授が発表した「学事凶作原因報告」から今年で100年になる。それを記念した本シンポジウムでは、地球温暖化といわれつつも岩手県をはじめ寒冷地で現在においても問題となっているイネの冷害問題に焦点をあて、不確実性を多く含む将来の気象条件下で安定的に稲作栽培を行うための方策を議論する。

プログラム

第1部 関豊太郎と冷害研究 (10:00～14:15)

- | | |
|--|---------------------------------|
| 関豊太郎と冷害 | ト蔵建治 (弘前大学) |
| 宮沢賢治と冷害 | 玉真之介 (岩手大学) |
| 地球温暖化の実態 | 栗原弘一 (気象庁) |
| 東北のコメ生産と冷害 | 一過去、現在、未来—
岡田益己 (東北農業研究センター) |
| Cold damage in rice in Australia and Laos
Shu Fukai (The University of Queensland, Australia) | |

小討論 「地球温暖化はサムサノナツをなくすのか？」

第2部 冷害発生メカニズム (14:30～17:20)

- | | |
|--|-------------------|
| Molecular and physiological basis of reproductive stage cold damage in rice
Rudy Dolferus (CSIRO Plant Industry, Australia) | |
| 四分子細胞カロース壁と耐冷性 | 小池説夫 (東北農業研究センター) |
| イネ耐冷性育種の進展 | 永野邦明 (宮城県古川農業試験場) |
| 総合討論 「異常低温に負けないイネをつくるには？」 | |

★遠隔教育システムで岩手大学大学院連合農学研究科の構成大学にも配信します。

【主催】 岩手大学農学部

【共催】 日本農業気象学会 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構・東北農業研究センター
寒冷圏未利用資源研究ネットワーク 岩手大学21世紀COEプログラム

【後援】 日本作物学会

【参加】 事前申込が必要 (定員150名で先着順に受け付けます。参加無料です。)

申込期限 2007年9月12日(水)

申込方法 FAXかEメールで必要事項記載の上 (氏名, 所属, 連絡先)

FAX: 019(621)6115 Eメール: reigai@iwate-u.ac.jp

問い合わせ: 〒020-8550 盛岡市上田3丁目18-8 岩手大学農学部 下野裕之
電話/FAX: 019(621)6146 Eメール: reigai@iwate-u.ac.jp